

都市再生整備計画 事後評価シート
新河岸駅周辺地区

平成30年3月

埼玉県川越市

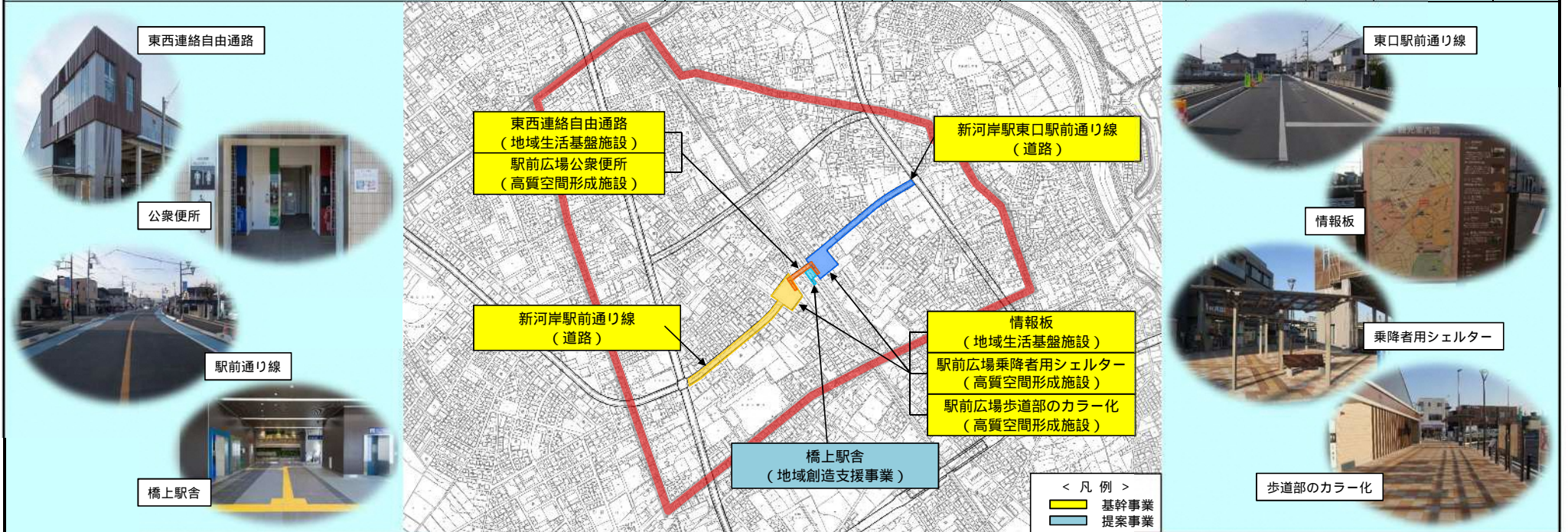
様式2 - 1 評価結果のまとめ

都道府県名	埼玉県		市町村名	川越市		地区名	新河岸駅周辺地区			面積	72.5ha	
交付期間	平成27年度～平成29年度		事後評価実施時期	平成29年度		交付対象事業費	2,812百万円	国費率	33%			
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 道路：新河岸駅前通り線、道路：新河岸駅東口駅前通り線、地域生活基盤施設：東西連絡自由通路、地域生活基盤施設：情報板、高質空間形成施設：駅前広場公衆便所、高質空間形成施設：駅前広場歩道部のカラー化、高質空間形成施設：駅前広場乗降者用シェルター									
		提案事業	地域創造支援事業：橋上駅舎									
	当初計画から削除した事業	基幹事業	なし	事業名			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響		
		提案事業	なし									
	新たに追加した事業	基幹事業	なし									
		提案事業	なし									
交付期間の変更	当初	平成27年度～平成30年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		なし							
	変更	平成27年度～平成29年度										
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期	
	指標1	公共交通機関の乗換所要時間の短縮	分	4	H26	2	H29	4	×	あり なし	計測時点では整備中のため、目標値を達成できなかった。整備の完了により、バス乗り場が鉄道改札口に近接する駅前広場内に設置されるため、1年以内の達成を見込む。	平成30年5月
	指標2	踏切を横断する歩行者交通量の減少	人	3,354	H26	2,199	H29	3,726	×	あり なし	計測時点では整備中のため、目標値を達成できなかった。整備の完了により、これまで踏切へ迂回していた鉄道東側からも、直接東口を利用できるため、1年以内の達成を見込む。	平成30年11月
指標3									あり なし			
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期	
	その他の数値指標1	消防活動困難区域の減少	%	28	H26		12				東西駅前通り線の整備により、6m以上の道路幅員が確保された。	-
	その他の数値指標2											
その他の数値指標3												
4) 定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> 地区の骨格となる東西の駅前通り線の整備により、これまではなかった広がりのある空間が創出された。周辺では建築物の更新も進み、駅前の印象が変わりつつある。 駅周辺整備を主題とした説明会に過去最多となる約90名の参加があり、自治会が主体となって開催した完成記念行事には約3,000名の参加があるなど、地域住民のまちづくりへの関心が高まっている。 											
5) 実施過程の評価	実施内容					実施状況					今後の対応方針等	
	モニタリング	-				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						
	住民参加プロセス	事業の推進に伴う工事説明会や、地区計画の活用に向けたまちづくり相談会を実施した。				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					整備された都市基盤施設の活用等について、地域の住民や商店会等を主体として、地域の活性化に向けた取り組みを検討する。	
持続的なまちづくり体制の構築	-				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							

様式2 - 2 地区の概要

新河岸駅周辺地区(埼玉県川越市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値				
大目標: 新河岸駅を拠点とする、コンパクトで良質な居住環境を備えた市街地の形成 小目標: 駅へのアクセス性向上等による駅周辺地区の拠点性強化 小目標: 地区の交通安全性・防災性向上による、安心して生活できる居住環境の創出	公共交通機関の乗換所要時間の短縮	単位: 分	4	H26	2	H29	4	H29
	踏切を横断する歩行者交通量の減少	単位: 人	3,354	H26	2,199	H29	3,726	H29



まちの課題の変化
 ・新河岸駅を中心とした整備が完了し、駅周辺が地区の拠点として一新された。今後は、整備された都市基盤施設の活用等について、主たる利用者である地域住民や自治会、商店会等を主体とした取り組みが課題となる。
 ・地区計画に基づく建築行為による緩やかなまちづくりを継続していくとともに、特に駅周辺については、まちの活性化に向けて用途地域に沿った土地活用の誘導が課題となる。

今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)
 ・持続可能なまちづくり体制の構築に向けて、地域住民や自治会、商店会等を主体とした組織づくりを進める。
 ・関係権利者等と協力して、都市計画道路や地区計画に定められた区画道路の整備を推進し、地区の安全性と防災性の向上に向けた取り組みを行う。
 ・川越市立地適正化計画や川越市都市・地域総合交通戦略等と連携し、まちの活性化に向けた土地活用の誘導を図る。